

# ありのまま自立支援奨励賞

## パンジーメディア

〔大阪府東大阪市〕



パンジーメディアのメンバーの皆様（当事者の方とスタッフ）

### ●沿革（ホームページ・パンフレットより）

私たちは、どんなに障害が重くても、

地域で自分らしくあたりまえに生きていける社会をめざして活動しています。

1993年に法人の拠点となるクリエイティブハウス「パンジー」（生活介護・短期入所）をオープンしました。

パンジーを始めるにあたり「普通の施設にたくない」ために、さまざまなことを試みてきました。

2019年4月には、香川県高松市に新しくクリエイティブハウス「パンジーV」（生活介護・就労継続支援B型・短期入所）をオープンしました。

現在は4つの拠点事業と、29カ所の自立ホーム、居宅事業、相談事業など多くの事業を展開しています。

- 1984年8月 障害者が地域で生きていくことをめざして、障害者・障害児とその親・健常者が月に1回の学習会を始める
- 1985年8月 自立の家「つばさ」設立準備委員会を発足
- 1986年1月 自立の家「つばさ」のオープニング集会  
自然食品の販売を中心に活動を始める

- 1989年3月 無添加パンの店「パンジー」オープン
- 1990年5月 自立生活体験宿泊を始める
- 1991年4月 自立ホーム「つばさ」スタート
- 1992年11月 社会福祉法人創思苑設立
- 1993年4月 クリエイティブハウス「パンジー」オープン
- 2000年4月 クリエイティブハウス「パンジーII」オープン
- 2009年4月 クリエイティブハウス「パンジーIII」オープン
- 2019年4月 クリエイティブハウス「パンジーV」オープン
- 2016年 パンジーメディア設立 9月よりインターネット放送開始

### ●パンジーメディア活動内容(ホームページより)

当事者が制作から関わるインターネット番組の配信を中心に、ドキュメンタリー映画の製作・上映会活動や書籍・DVDの出版など、社会の人たちに知的障害を持つ人のことをもっと知ってもらうため、さまざまな情報を発信しています。

### ●3つのプロジェクト(ホームページより)



インターネット番組を製作し、一カ月に1回新しい番組を放送します。

WEB番組『きぼうのつばさ』を毎月配信。2016年9月より、現在まで93回は配信しています。(2024年5月31日現在)



ドキュメンタリー映画を製作し、全国各地で上映会や講演会を開催しています。

9本のドキュメンタリー映画を製作しています。全国で上映会や講演会などの活動を積極的に行っています。



知的障害を持つ人に関わる本や  
DVD の出版を行っています。

これまでの活動における体験やエピソード  
を元に、本や DVD の出版を行っています。

## ●活動への思い(ホームページより)

### 誰もが生きやすい社会の実現をめざして

2016年7月26日、相模原の障害者施設「津久井やまゆり園」で障害を持った男女19人が元職員に刺され亡くなりました。この事件についてパンジーの当事者は次のように語っています。

「大きなショックをうけています。犯人は、障害者なんていなくなればいいんや、と言っていたそうですが、障害者は生きていたらあかんのか、腹が立ちます。殺されるために生まれたわけじゃない。くやしいです。」

事件が起こった日から、私たちは何をしなければならないのかを問い続けました。その過程で、知的障害を持つ人たちの置かれている状況やくらしが、社会にあまりにも知られていない事に気づきました。

2016年度は、タイムリーに誕生した「パンジーメディア」。インターネット放送を通じて、私たちのことをもっと知ってもらうために、情報発信に力を入れてきました。幸いにもNHKのハートネットで紹介される機会があり、パンジーで生き生きと活動している人たちのことを伝えることができました。これからも私たちは社会に向けて発信をしています。

さて、インターネット放送は2016年9月からスタートし、毎月欠かさず番組を作っています。この番組を作る中で、私は思わぬ変化に目を見張ることになりました。当事者の表情や行動が変わっていったのです。何がそうさせたのかを考えたときに「役割を持つ」こととは何かということに行き当たりました。これまで創思苑では、当事者が「役割を持つ」ことを大切に考えてきたつもりでした。しかし、当事者のメディアの中での役割、例えば、プロデューサー、カメラマン、キャスター、出演者、コメンテーター等を見たときに、今までの「役割」とは違うものを当事者たちが見つけていったことを感じました。

もう一つメディアを通じての発見がありました。職員が映像を見ることによって当事者の人となりに触れるチャンスとなり得ること、当事者の可能性を感じるができるということです。例えば、職員は『私の歴史』という番組を通じて、今まで語られてこなかった当事者の人生を知ることになります。0コマ何秒といった映像の中に当事者が見せる表情や行動から読み取れることは何かを考えることができます。これらのことがきらめく宝石のように見えてきたのです。

これらメディアの活動が、障害者と健常者の間に存在する見えない垣根が低くなり、相模原事件のようなことが起こらない社会の実現につながっていくのだと考えています。

## ●番組制作の中で工夫していること・大事にしていること

パンジーメディアで一番大きなテーマは「どんなに障害があっても地域で自分らしくくらする」です。

そのメッセージを届けるために、番組制作には次の3つのことを大切にしています。

1つは「ジャーナル」。時代をしっかりと見つめることです。2つ目は「エッセンシャル」。本質は何か、奥に潜んでいるものは何かを探ります。そして3つ目は「サムシングニュー」。新しい目線で見つめる。何か新しい表現をするということです。

また、当事者が役割を持ってメディアの制作に関わることを大切にしています。現在では、当事者がカメラマン、キャスター、スイッチャー、フロアディレクター、音声、プロデューサーとして、編成会議や、スタジオ会議にも参加し、責任を持って番組制作にかかわっています。

## ●思い出に残る出来事

2016年に始まったパンジーメディアは、準備期間を経て9月の第1回放送の番組作りが始まりました。その一つがドラマ「闇の王」、入所施設を舞台にした物語です。

その準備をしている時に、津久井やまゆり園事件が起きたのです。ショックで何日もの間、誰もが事件について話しませんでした。ようやく事件から3日後、当事者に思いを聞くことができました。

「わしら生きてたらあかんのか」「好きで障害者に生まれたんじゃないわ」。

「闇の王」のドラマは、入所施設を出ようとみんなで戦う物語でした。そのドラマに、みんなが語った思いをセリフとして入れました。パンジーメディアの目指す方向が、この時はっきりと定まったのかもしれませんが。「入所施設をなくそう」。

## ●今後の目標

8年間、メディアを続けてきて、社会に広がってきていることを実感しています。今回の受賞もそうです。これまでは“知的障害者が発信する”ことが特別なことだと、注目をされてきた面があります。しかし、もっと当たり前前に社会に発信をして受け入れられること。知的障害者が当たり前前にくらししていける社会になることを目指します。そして、一番大きな目標は入所施設をなくすことです。

## ●受賞者談話

この受賞を心から喜んでいきます。知的障害者のありのままの姿を見てほしい。彼らの想いを知ってほしい。と、はじめた映像発信。最初は機材もカメラも何もないところから始めました。小さなカメラで始めたこの活動が今、大きく動き始めています。作った映像がいろいろなところで上映会やシンポジウムが開かれたりと、本当に最初は小さな羽ばたきだったのが、今、大空へはばたくように、、、これはパンジーメディアがはばたくのではなくて、知的障害者が生き生きと大空へはばたけるようになってほしい。そんな思いでこれからも続けていきます。

## 【選考理由】

全国的にもめずらしい知的障害をもつ方自信が発信するインターネット放送は2016年9月からスタートしました。すべての番組制作や企画、撮影ではその方の特性や役割が発揮できる環境を創設し、当事者が主体となって長年発信し、継続してこられたことは大変評価されます。映像制作ではプロの方はおひとりで技術的な部分などで大変なご苦労があったと思います。当事者の視点での番組制作にこだわり、視聴者に大変影響を与えるメディアでの発信力は大きなものがあり、当事者の方が伝えたいことを映像を通して社会に伝えてきたことは大きな意味があります。さらに今後は知的障害の方だけでなく、精神や身体、難聴のある方々との番組製作を目指しておられます。障害の有無に関わらず、すべての方々と共に発信できるメディア、そしてそれが当たり前になっていく社会へと導く先駆的な役割を今後も期待しています。こうした先駆的な取り組みを高く評価すると共に更なる発展を期待し、ありのまま自立支援奨励賞をお贈りします。

## 【スタジオの風景】



## 【ドラマロケ】



## 【ドラマ練習】



## 【私の歴史】

